



▲遠藤町長から代表して委嘱状を受ける国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所郡山出張所の坂本悟所長（左）

## 災害に備えて

＝鏡石町防災会議＝

2月13日(休)町役場第一会議室で、平成25年度第1回防災会議が開催され、町や国・県などの関係者で構成された委員により鏡石町地域防災計画の見直しなどが検討されました。

会議の冒頭では、会長である遠藤町長が「地域防災計画を見直すことになり、災害に強い素晴らしい計画ができることを期待します」とあいさつしました。会議では、今回の意見を反映させた案を再度検討し、3月末までに計画を完成させる予定です。

## 青少年のために

＝法務大臣表彰＝

小貫良巳さんが法務大臣表彰（更生保護事業功労者）を受け、1月31日(金)に町長へ報告に訪れました。

今回の小貫さんの表彰は、長年にわたり保護司として活躍し、犯罪や非行をしてしまった方の立ち直りを支援してきたことが認められたものです。

報告に訪れた小貫さんは「表彰されたのはみなさんの協力のおかげです。この表彰に恥じないように青少年の健全育成のために今後も活動していきたい」と話されていました。



▲表彰されたことを遠藤町長（左）へ報告する小貫さん（右）

## 沖縄県

## 鏡石町をPR

## 東京都

2月1日(出)沖縄県北谷町の北谷町産業総合展示会で鏡石米作り部会（和田和久部会長）による町産米のPR活動を行いました。

今回のPR活動は、原発事故の風評被害の払拭を目的とし、現地で町の特別栽培米「牧場のしずく」の試食などを行い、町産米の魅力をPRしました。また、試験販売として持参した2kg詰めもすぐに完売しました。

なお、北谷町とはスポーツ少年団を通じた交流が盛んで、2月18日(火)には北谷町議会が視察のため来町しました。



▲「牧場のしずく」のサンプル配布は大好評

2月18日(火)東京都板橋区の大山商店街のイベント会場で、鏡石町観光協会（遠藤栄作会長）と鏡石米づくり部会での合同による首都圏キャンペーンを行いました。

キャンペーンでは、特別栽培米コシヒカリ「牧場のしずく」、今が旬の「いちご」、蜜たっぶりの「りんご（ふじ）」、「岩瀬きゅうりの漬物」などを出展し、特産品を通じて鏡石町と周辺地域をPRし、首都圏の方々と交流を図りました。



▲昨年に続き今年も町の特産品は大盛況

## 新校舎に新しい校旗

＝東日本大震災被災校支援品贈呈式＝

2月19日(休)鏡石町立第一小学校体育館で、兵庫県の宝塚中ロータリークラブ（大西利哉会長）と須賀川南ロータリークラブ（内藤健二会長）から、同小学校へ校旗、オルガン9台、国語辞典510冊が贈呈されました。今回は、東日本大震災によって大きな被害を受けた同小学校の速やかな復興を祈念し、全国から寄せられた基金を含めて贈呈されたものです。

当日は6年生を送る会と併せての贈呈式ということもあり、全校生徒で両ロータリークラブへ感謝を示しました。



▲児童を代表して校旗を受け取る松崎史香さん（右）

## まちの話 話題フォトアルバム



▲忠霊塔の前に焼香する遺族会のみなさん

## いつまでも忘れない

＝忠霊塔災害復旧工事竣工報告＝

2月24日(月)鏡石町立第一小学校敷地内の忠霊塔で町遺族会（君島喜智男会長）や町関係者の約20人が出席し、東日本大震災で崩落した忠霊塔の災害復旧工事竣工の報告が行われました。

この忠霊塔は、明治以降の戦争により、武運拙く散華した将兵の武功を永遠に称え、鏡石町の戦死された191の御霊を慰めるために建てられたものです。

なお、報告の後には出席者により、焼香が行われました。

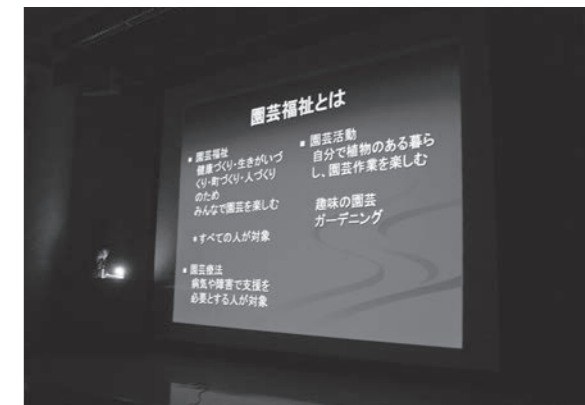
## 研究の成果を発表

＝農業課題研究発表会＝

県立岩瀬農業高校（横山道夫校長）は、2月14日(金)に町図書館で第10回農業課題研究発表会を開催しました。

発表会には、町民や鏡石中生徒などが参加し聴講する中、1月に同校で開催された研究発表会で最優秀賞、優秀賞となった6チームが研究した成果を発表しました。

テーマの中には、「我らの力で地域に元気を～かがみいし田んぼアート project～」や「高校生café in オランダ祭り」など町内の事業もテーマとなっていました。



▲スクリーンを使って発表する生徒

## ふ・く・し・ま・ふ・っ・こ・う

＝福島復興だるま＝

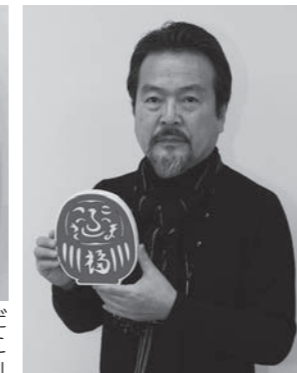
鏡石町在住の絵本作家である菊地清さんが1月30日(休)来庁し、完成したばかりの「福島復興だるま」を披露しました。

このだるまは菊地さんが、福島県の一日も早い完全復興を祈念して考案、デザインし、国見町の佐藤敏男さんに制作していただいたそうです。

菊地さんは「このだるまを見て笑顔になってもらえれば幸いです」と話していました。



▲「笑福」が特徴のこのだるまは、「ふくしまふっこう」のひらがな7文字（「ふ」は一文字）が目鼻を構成しています



▲福島復興だるまをデザインした菊地清さん